



令和5年度 幼児教育研修（中堅保育者）
 「行事のあり方を考え、子どもを中心とした保育で園文化を創る」
 日時：令和5年10月2日（月）15：00～17：00
 会場：足立区勤労福祉会館
 講師：共立女子大学 教授 田代 幸代 氏

行事とは・・・。

行事を通して、何を経験させたいのかが大事。

子どもが胸をはずませ指折り数えて待つように、それまでの一日一日の楽しい経験を積み重ねながら期待を高め、待ち望む喜びを味わうように準備していく。一人一人の子どもがどのように感じているのか、保育者は確認しながら取り組む。



運動会でリレーをする。など行事そのものを目的化しない。
日常生活の上に行事があります。

『保育用語辞典』ミネルヴァ書房



子どもの学びを深める要素

遊びの充実



モノやこととの
関わりが深まり
広がる

自分の
興味関心



みんなの
興味関心



友だちとの
関わりが深まり
広がる



共感性の高いクラス集団



保育者や保護者の肯定的なまなざし



子どもの学びが深まる

これから求められる人材とは・・・。

未来人材ビジョン（経済産業省）

多様な他者との
協働

専門性を身に
つけている

これからの日本

好きなことに
のめり込む

未来を牽引する人材

新しい解を生み
出せる



こんな子どもに
育てていきたい

そうした人材は「育てられる」のではなく
ある一定の環境の中で「自ら育つ」

保育園では・・・

子どもたちが、好きなことに
繰り返し挑戦したくなる機会
を増やしていく

こんな保育を
していきたい



そのためには・・・

内発的動機付けが大事

- ・自ら、楽しい、面白いと思って関わること

外発的動機付け

- ・保育者や親や仲間から褒められる（承認動機）
- ・人から注目される（顕示動機）
- ・ご褒美をもらう（獲得動機） など



子ども主体の行事をつくるポイント

事例 生活発表会 4歳児

『ぽんたのじどうはんばいき』



短期の指導計画 子どもが主体的に遊ぶ

- ◆興味や関心から遊ぶ。
- ◆保育者は環境を構成する。
 - ・自動販売機を作製
クラスが知っている話はイメージが共通されやすい
 - ・お面の製作材料を用意
子どもと一緒に役に必要なものを考えてたり、作ったりする
 - ・遊びながらいろいろな役に
なれる時間的余裕

降園前に『ぽんたのじどうはんばいき』の絵本を読んだ。その後、うさぎやいぬなどのお面を作れるように材料を用意しておいたところ、動物のごっこ遊びが楽しくなっていった。楽しんでいる遊びを絵本のあらすじに位置づけ、クラスの劇ができていった。

長期の指導計画 クラスで取り組む学級活動

- ◆共通で体験したい活動。
- ◆保育者が活動を提案する。



「僕、うさぎだから大縄跳びやってみよう!」と、自ら新しいことに挑戦しようとする姿が見られる。

動物のごっこ遊びを楽しむようになってから、普段関わりの少なかった子たちと一緒に遊んでいる。

友だちや保育者との遊びがきっかけとなり、繰り返し遊ぶ中で、子どもの「もっと遊びたい」が育っていきます。

ごっこ遊びから生活発表の劇へ

遊びとしての「ごっこ」を、行事としての劇的表現活動につないでいく

子どもの楽しんでいるごっこ遊びから、劇遊びにつなげたけど、話の内容が単調になってしまう。

劇遊びには「起承転結」の流れが必要です。小さなエピソードが繰り返されることで、緊張感が高まり、最後に緊張感が一気に解放されます。ごっこ遊びの要素を取り出して、構成していくことが大事です。

自動販売機に葉っぱを入れると欲しいものが出てくる
いろいろな動物たちが自動販売機で欲しいものを出してもらう

友だちが欲しいといわれ困ってしまう

ぽんたが友だちとなってみんなで楽しく遊ぶ

研修生の報告書より

日々の遊びの充実の先に行事があり、遊びの充実を図るために今のクラスの子どもたちが何を楽しみ、クラスの活動として何を体験させたいのか短期、長期の指導計画を具体的に立てていくことが重要であると感じた。きっかけは保育者の提案であっても、経験することで子どもたちが自ら選択して繰り返し遊ぶもの(内発的動機付け)が増えていく。そのための環境設定を子どもの姿を見とり、ねらいを合わせて行っていく。

行事とは何か、子ども自身が胸をはずませ指折り数えながら、それまでの一日一日の楽しい経験が積み重なるうちに期待感を高めていくもの。という言葉がとても印象に残った。行事を通して子どもたちにどんな経験をさせたいのか、どんな力を育ませたいのか、保育者の願いを遊びの中に組み込み込んでいく。子どもたちの思いがけずに合わせて柔軟に対応し、一人一人が自分なりの表現をどう表しているか、丁寧にに関わりながらその子らしさを大切に今後も子どもたちと向き合っていきたい。